

—INTERVIEW—

# 現実を写しとる写真の醍醐味

渡邊博史さん

「バラダイス・イデオロギー」

電報、カラー、38000円

撮影：渡邊博史 インタビュー：森坂英人



**被** 写体をストレートに写す  
写真の力をまざまざと感  
じさせるのが、渡邊博史さんの  
写真集「バラダイス・イデオロ  
ギー」だ。それは国家によって  
天国とされる北朝鮮の状況  
を、極彩色のなかに浮かび上  
がらせる。米国在住の渡邊さん  
にメールでの取材をお願いした。

「アメリカから日本に帰ってきて  
テレビを見ると、北朝鮮の報  
道が多く、内容もスキヤンダ  
スな取りあげられ方をしている

ら、そのイメージと「海軍治」という言葉がかけ離れていました。写真が部分拡大されて後ろに写っている人が横田めぐみさんと書かれても、ボケていて分からぬ。そのスナップ写真全体をみると、普通の海軍治の写真でした。北朝鮮は特殊なひどい国だと思っていましたから「なんでこんなに普通なんだろう」と思い、すこく触発されました。それが、北朝鮮に行ってみたく思ったきっかけです。行ったのは2006年と07年の春に2回。1回の旅は10日間ほど。インターネットで日本の旅行代理店が北朝鮮ツアーをしているのを見つけて、申し込んだ。その際、写真家なので個人旅行として写真を撮ることを前提に行きたいと頼みました。平壤の飛行場に着くと私一人に対して運転手が1人、ガイドが2人待っていました。すぐにパスポートを取られ、ここに戻ってくるまで預かると言われました。それからホテルの中以外はすべて4人での行動です。基本的に決められた観光コースを回るのですが、リクエストを出すとその場ですぐには行けなくても翌日に連れていってもらい撮影もさせてもらいました」

写真集には天真爛漫、純真無垢とも言えるような少年少女たち、新婚カップルの姿が色鮮やかに写されている。

「このシリーズは最初に米国で発表したのですが、そのタイトルは「Ideology in Paradise」。訳せば「バラダイスのイデオロギー」。北朝鮮の国家は自分たちの国は理想国家で世界中の人たちから素晴らしい国であると思われていると一生懸命伝えようとしています。その彼らの言葉の伏線にある「自分達は清く正しい」という考えは、何もこの国だけではなく、人間社会で繰り返す言い続けられています。キリスト教で神を信じた人々が教われ天国に行くことができるという考えや、共産主義ですべての人たちが集団で生産し分け合うことによって平等な社会を実現できるという考え、日本でも軍国主義の時代に大東亜共栄圏を築いて天皇の神国日本が欧米諸国からアジアを解放するという考えなど、すべてバラダイス思想です。しかし、本当に大事なものは、結局いつもそこに生身の人間が生きている（いた）ということです。

私は無神論者ですが、教会に入るときはちゃんと帽子をとってお辞儀をします。それが礼儀ですから。北朝鮮に行ったときも、先入観でものを見たり人に接することはやめて、正面から写真に収めてみようと思いましたが、ひとまずその通りに受け入れて見てみよう。ただ、写真というのは、意識しなくても機械的に現実を写し撮ってしまふ。美しく撮られた写真の表情のどこかににじみでた悲しさや寂しさとか、被写体の背景に何げに写っている現実とか、もろさとか、それを発見することも写真の魅力で、そこに写真の醍醐味があると思っています。あらかじめ決められた自分の考えを表現する手段としての写真ではなく、写された現実には誘惑されて考えること、そのとき写真は力を持つてくると思います」



わたをへ、ひろし◎北海道札幌市出身、1975年日本大学芸術学部卒業、アメリカ・ロサンゼルスに移住。現在、フライングアート写真家として活躍。写真や写真集の発表多数。